

マダラコガシラミズムシ *Haliplus sharpi* Wehncke

【選定理由】

平野部から丘陵地にかけて広く分布していたと推測されるが、平野部における多様な水域の減少で生活の場を失ったと考えられる。

【形態】

体長 3.3~3.8mm。上翅の黒紋は明瞭で、基部には常に横紋があり、側方の円紋および中央紋より斜め前方の紋が明瞭。

【分布の概要】

【県内の分布】

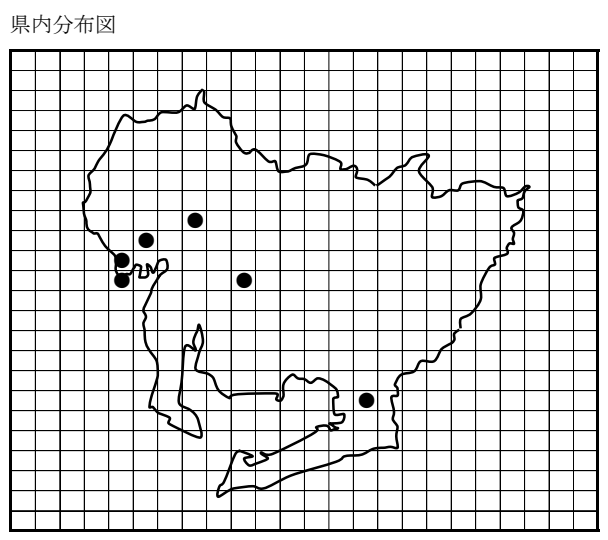
1961年に安城市（神谷, 1961）から記録されて以来、久しく情報がなかったが、2000年以降、名古屋市（大野, 2017）、弥富市、豊橋市等で確認されている。

【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

中国。



【生息地の環境／生態的特性】

平野部の水草が繁茂する自然度の高い池沼に生息しているが、生態については何も判っていない。

【現在の生息状況／減少の要因】

宅地開発、水田の圃場整備等による生息地の消失・改変、農薬散布や生活污水による影響を強く受けたことが考えられる。また、水草の豊富な水域に生息する種であることから、アメリカザリガニによる水域環境の悪化も影響があった可能性がある。2000年以降に名古屋市や豊橋市などで発見が相次いでいることから、詳細な調査が必要である。

【保全上の留意点】

現在ある自然度の高い池や水辺環境をそのまま保全することが、本種の将来的な自然回復の可能性を残すことになるばかりでなく、多くの水生生物にとって最も有効な保全手段である。水田やその周辺の水域に生息する種であることから、ネオニコチノイド系農薬の影響についても留意する必要がある。

【特記事項】

古い記録は学名が *H. tsukushiensis* Yoshimura となっている。

【引用文献】

- 神谷一男, 1961. 東海地方の珍しい昆虫. 名古屋鉄道刊.
大野友豪, 2017. 平和公園くらしの森にてマダラコガシラミズムシを採集. 佳香蝶, 68 (268): 57.

【関連文献】

- 中根猛彦, 1985. 日本産ヒメコガシラミズムシ属の種の再検討. 北九州の昆虫, 32 (2): 61-67.
佐藤正孝, 1984. 日本産水棲甲虫類の分類学的覚え書, I. 甲虫ニュース, (65): 1-4.

(長谷川道明・蟹江 昇・戸田尚希)